

京都府教育委員会教育長 様

令和 8年 3月 11日

ラ ボ 名	生成AIの有効活用を探究する会
代表者所属名	京都府立洛東高等学校
代表者職・氏名	教諭 ・ 長谷川晋也

京都府立学校授業力等向上ラボ支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 ラボ名

生成AIの有効活用を探究する会

2 研究テーマ

授業における教材作成、問題作成及び分掌業務における生成AIの有効活用

3 研究の目的

プロンプトゲートを使用して、汎用性の高いプロンプトを作成・共有することで業務効率化を図る。また、デジタル操作が不得意な教員でも簡易に生成AIを使用する環境を設計する。

4 研究の成果と課題

汎用性の高いプロンプトを共有することで問題作成等の負担を軽減できた。一方で、プロンプトゲートを活用する教員が限定的で活用できる場面の検証が十分に行うことができていない。

5 研究成果の波及方法

実際に作成したプロンプト及びその活用事例の共有することで活用することができる。また、共有したプロンプトをベースに別の分野の業務に応用させることができる。

6 研究（活動）実績※

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
令和7年度 （通年）	洛東高校では、年度当初にプロンプトゲートの教員研修会を実施し、活用事例の共有及び使用者の募集をした。アカウント保有者が問題作成等に対応するプロンプトを作成・使用し、効果を検証した。 英語科においては、テーマやレベルに沿った英語長文を作成し授業等で活用することで教材研究の時間を短縮することができた。また、3年生の面接指導において、出願先に応じた質問項目等のたたき台を作成することで、初めて担当する教員でも一定の水準で指導にあたる助けとなった。 作成したプロンプトは共有し合うことで、教科・分掌を超えて各種業務の効率化を図ることができた。 鴨沂高校では、10月にプロンプトゲートで効率化が期待できる校務について全教職員を対象に調査し、業務の洗い出しを行った。その結果を踏まえ、12月には教員研修会を実施した。研修では、志望理由書の添削や「総合的な探究の時間」で作成したレポートを、ループリックを用いて評価するためのプロンプト作成を、実際の操作を交えながら体験した。 これらの取り組みにより、教職員がプロンプト活用の具体的なイメージを共有し、校務の効率化に向けた基盤を整えることができた。	京都府立洛東高等学校 京都府立鴨沂高等学校

7 予算執行状況

- (1) 旅費・研究会等参加費は、旅費等執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	生徒の生成AIのリテラシー教育
育てたい資質能力	生徒の生成AIの使用リテラシー能力

実践又は研究の 具体的内容	生徒向けに生成AIに関する講習を計画する。効果的な活用方法だけでなく、著作権問題や生成AIとのかかわり方を指導する。 ○具体的な研究内容 ①生成AIを活用した授業法の研究 ②実践事例の共有と発展 ③生成AI活用に関する留意事項の指導教材の開発 個人情報等の入力禁止、ハルシネーション、著作権等
--------------------------	--